

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 岡山天体物理観測所の絵葉書 (1968年以前のもの)**

筆者は、1961年、東京天文台岡山天体物理観測所開所の翌年、3月に同所に就職した。今回の絵葉書は、筆者の手元にあったものだが、今まで記事になっていないので紹介する。この絵ハガキには65cm太陽クーデ望遠鏡のドームが写っていないことから1968年以前に作成されたものであろう。写真1は188cm(74吋)反射望遠鏡ドーム、写真2は東の遥照山からの観測所を遠望したものである。この写真にはドームは188cm望遠鏡ドーム、91cm望遠鏡ドーム、30cm望遠鏡ドームの3つが写っており、65cm太陽クーデ望遠鏡ドームがない。

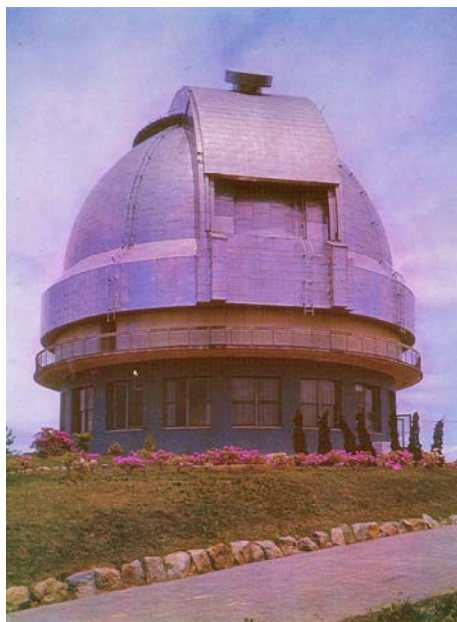


写真1

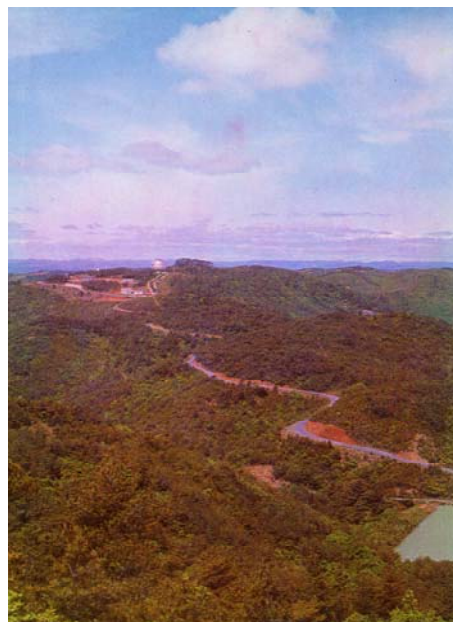


写真2

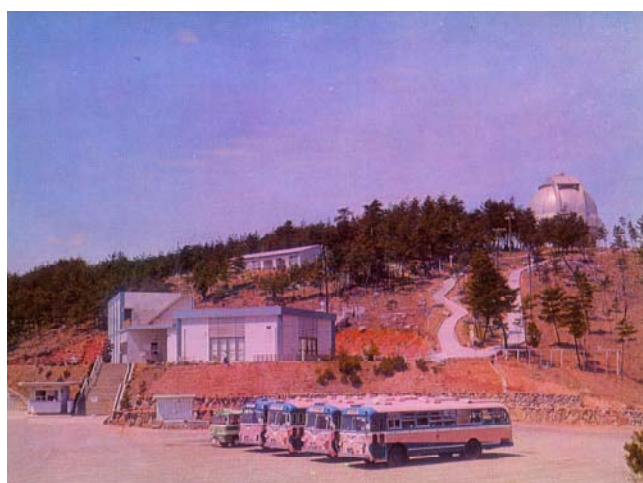


写真3

写真 3 は、岡山天体物理観測所を訪れる見学者用の駐車場である。筆者が観測所にいたころにはこの駐車場に止まり切れないほど見学者がやってきて、この下には予備駐車場もあった。それほどに岡山県にあっては大きな観光資源になっていたのである。

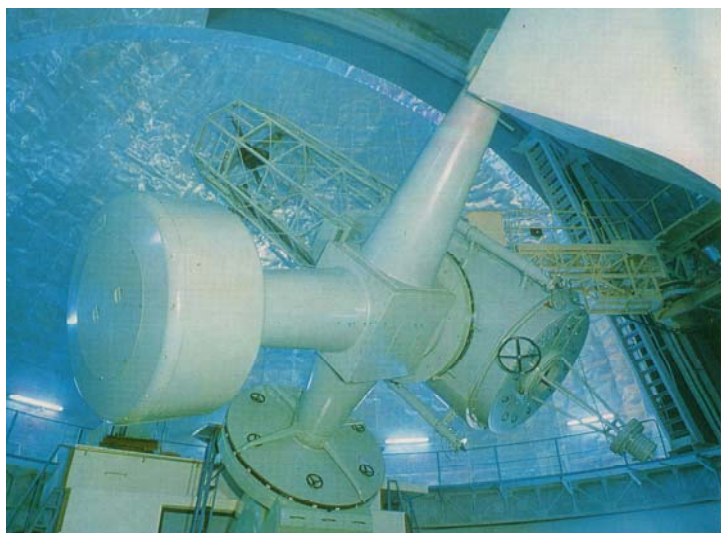


写真 4

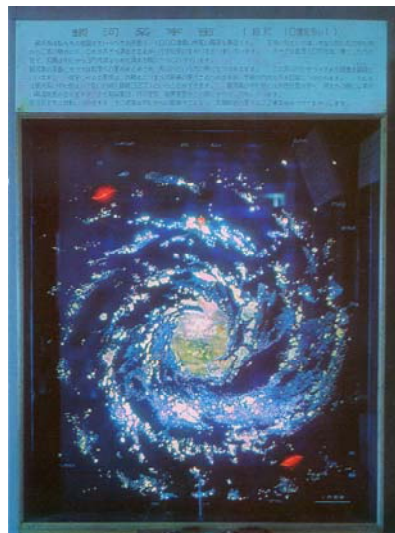


写真 5

写真 4 は、岡山天体物理観測所の主望遠鏡である 188 cm 反射望遠鏡である。カセグレン焦点に分光器ではなくダミーウエイトが着いていて迫力がないのが残念である。写真 5 は、観測所設置の際、岡山県が設置した岡山天文博物館の銀河系模型の展示である。



写真 6

写真 6 は、観測所の東に位置する遥照山から水島灘を撮影したものであり、観測所とは直接関係ないが、岡山天体物理観測所は、建設まもなく、この新産業都市の優等生であった水島工業地帯の光害に悩まされることになり、この美しい光景が恨めしかったのであろう。現在では工業地帯の埋め立ても進んでもっと大きな工業地帯になっており、この光景の中には瀬戸大橋も見える景色になっているのである。

この絵ハガキは 6 枚組であるが、何の目的で作成されたかはよくわからない。観測所の絵葉書なら 91 cm 望遠鏡があってもよい。開所 5 年を記念して作られたのかもしれない。作成の中心になったのは大沢清輝、石田五郎両氏であったろうがすでに鬼籍である。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp